

カラマツ大径材の流通調査（平成元年度）

菅野 弘 一

はじめに

道林務部のカラマツ素材・製材流通調査によれば、平成元年度に生産されたカラマツ素材量は1,066千 m^3 です。このうち大径材（径級30cm上）は8.8千 m^3 ありますが、これは素材生産量の0.8%でしかありません。数量的には前年度に比べ全体で4%、大径材では6%減少しています。一方、製材生産量¹⁾は梱包・パレット材の需要好調を受け2.4%増加していますが、カラマツ素材生産量は、ここ数年横ばいの傾向といえます（表1）。

大径材の生産量もここ1～2年減少していますが、カラマツ人工林の齢級別蓄積量など統計資料をみますと、大径材の生産量が増加していくことは予想できます。現在カラマツ大径材についての一般的な流通市場は形成されていませんが、今後カラマツ大径材の利用拡大を図っていくための資料として、元年に続きカラマツ大径材（径級30cm上）の流通について簡単な調査を行ったので報告します。

調査対象企業と期間

平成元年4月～平成2年3月までの1年間に、カラマツ素材の生産およびカラマツ原木を消費した、道内全企業（素材499社、製材133社）に対して、大径材のアンケート調査の協力をお願いしました。

調査結果の概要

(1) カラマツ大径材の生産量と用途別出荷量
アンケートの回答をいただいた企業は、素材151社、製材68社でした。そのうち大径材を扱っていたのは、素材102社、製材63社でした。並行して行った道林務部のカラマツ流通調査では、素材499社のうち大径材を生産した企業は117社（23.4%）、大径材から製材をした企業は133社のうち67社（50.4%）ですから、大径材を扱った企業からのアンケート回収率は、素材で87.2%、製材では94.0%と大変高い回収率といえます。所有林野別素材生産量について表2に示しました。林務部の流通調査によれば、平成元年度の大径材の生産量は8,813 m^3 と報告されていますので、今

表1 径級別素材生産量の推移

単位：数量 千 m^3 ，比率%

径級 cm 年度	～7		8～13		14～18		20～28		30 上		合 計	
	数 量	比 率	数 量	比 率	数 量	比 率	数 量	比 率	数 量	比 率	数 量	比 率
60	201.1	16.8	464.1	38.4	395.4	32.7	137.0	11.3	11.6	1.0	1,209.2	100
61	150.2	13.8	441.7	40.7	370.2	34.1	112.7	10.4	10.8	1.0	1,085.6	100
62	152.5	14.8	393.4	38.2	348.4	33.9	121.6	11.8	13.0	1.3	1,028.9	100
63	137.5	12.4	394.9	35.5	412.0	37.0	159.2	14.3	9.4	0.8	1,113.0	100
64	141.3	13.2	344.2	32.3	413.3	38.8	158.8	14.9	8.8	0.8	1,066.4	100

表2 カラマツ大径材（30cm上）の所有林野別素材生産量

区分	国有林	道有林	市町村有林	会社有林	個人有林	その他	計
数量（m ³ ）	1018	132	1752	126	5614	35	8677
比率（％）	11.7	1.5	20.2	1.5	64.7	0.4	100

表3 大径素材の用途別出荷量

区分	素材	杭木	パルプ	電柱	杭丸太	その他	計
数量（m ³ ）	6592	75	458	480	873	157	8635
比率（％）	76.3	0.9	5.3	5.6	10.1	1.8	100

表4 定期的に枝打ちが行われているカラマツ

区分	齡級	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII上	計
所有林分a(ha)		1095	1559	3615	6399	5026	5064	3404	17103	43265
枝打林分b(ha)		10	121	908	1874	734	588	247	283	4765
b/a(%)		0.9	7.8	25.1	29.3	14.6	11.6	7.3	1.7	11.0

回調査の生産量8,677m³は全道生産量の98.6%です。これを所有別にみますと、個人有林と会社有林いわゆる一般民有林からが66%ですが、元年度は市町村有林からの出材量が20%と多くなっています。一方素材の用途別出荷量を表3に示しました。平成元年度の全道流通調査では製材用は58%、今回調査では製材用76%と増加しています。

次は、長尺・大径材を必要とする杭丸太・電柱用で16%出荷されています。一万、パルプチップ用にも5.3%出荷されています。

(2) カラマツ林分の枝打ち

今回の調査で大径材の生産とは別に、良質大径材の生産に欠かせない枝打ち林分について、簡単な設問をしました。

回答151社のうちカラマツ林分を所有している企業は62.2%の94社で、そのうち定期的に枝打ちをしている企業は42.6%で39社でした。所有林の齡級別面積と枝打ち林分面積の結果を表4に示しました。定期的に枝打ちが行われている林分は4,765haで全体の11%しかありません。齡級別では齡級が29.3%、齡扱が25.1%枝打ちされています。

(3) カラマツ大径材の製材と用途別出荷量

製材工場が入手した大径材について表5-1~3に示しました。所有別では一般民有林が76.3%

です。径級別では、30cmが58%と半数以上で、大径材といっても30~34の径級で89%を占めています。また、長さ別では3.65m材が56.2%、2.80mが17.9%です。表の長さ区分以外に5.00m、2.40m、2.20m、2.00m材などで入荷している素材も少量ありましたが、表の区分に分散させてあります。なお、素材量と径級別、長級別の数量計が一致してませんが、これは径級・長級別個表に未記入のものがあつたことによります。一方、素材の価格ですが品等区分はほとんどされていません。価格は一部46,000円/m³以上で購入されたものもありましたが、大部分は品等込み材で12,000~18,000円/m³でした。その中で多かったのは14,400円、15,120円でした。

用途別出荷量を表6に示しました。現在のカラマツ市場の需要を反映し、大径材からの製材も梱包・パレット材が多く86%を占めており、建築・家具用は8.6%にしかすぎません。

(4) カラマツ大径材の今後の見通し

一般住宅用建築材としての今後の見通しについて聞いてみました。

建築材として使用される可能性については

- *可能性はある 39社（57.4%）
- * " ない 11社（16.2%）
- *わからない 18社（26.4%）

表5 製材用原木として入荷した道産カラマツ大径材

5-1 所有林野別素材量

区分	国有林	道有林	市町村有林	会社有林	個人有林	その他	計
数量 (m ³)	335	53	358	444	9129	2226	12545
比率 (%)	2.7	0.4	2.9	3.5	72.8	17.7	100

5-2 径級別素材量

区分 \ 径級 cm	30	32	34	36	38	40	42	44	計
数量 (m ³)	7244	2216	1593	709	487	134	76	30	12489
比率 (%)	58.0	17.7	12.8	5.7	3.9	1.1	0.6	0.2	100

5-3 長さ別素材量

区分 \ 長さ cm	~150	~180	~280	~300	~365	~400	~600	計
数量 (m ³)	466	1430	2229	1041	7015	287	4	12472
比率 (%)	3.7	11.5	17.9	8.3	56.2	2.3	0.1	100

表6 大径材から製材したものの用途別出荷量

区分 \ 用途	家具用	建築用	梱包材	土木用	パレット材	その他	計
数量 (m ³)	36	483	2642	123	2502	223	6009
比率 (%)	0.6	8.0	44.0	2.1	41.6	3.7	100

可能性のある場合

- * エゾ・トドと价格的に競合できる 16社
- * エゾ・トドより価格を下げる 12社
- その場合何%程度ですか
 - 10~15% 6社
 - 20% 4社
 - 30%以上 2社
- * 価格についての記入なし 11社

* 赤味を生かした化粧板
などの意見がありました。

おわりに

元年に続きカラマツ大径材の流通アンケートを実施しました。今回は全数調査で回収率も大変良く、カラマツ大径材の流通実態がある程度見えてきたと思います。今後の建築材としての需要見通について、理由は色々あるでしょうが、“ない”と“わからない”の答えが43%ありました。今後、生産の増加が明らかなカラマツ中・大径材の付加価値を高めた利用用途は、現状ではそれほど多くないといえます。少量の利用としては家具・建具などへの用途も考えられますが、大量使用としては一般的ですが、やはり建築用材(構造・造作用)として普及していくことが一番と考えます。そのためには現在カラマツを扱っている企業が、カラマツの利用に自信を持つことではないでしょうか。

可能性のない場合の理由

- * 一般住宅用としては需要がない
- * 梱包用材の需要が今後も活発になる
- * 建築材はエゾ・トド、輸入材が主流で資源が無くならない
- * 狂い、やにが問題になる
- * 材が変色する など

大径材のより付加価値の高い用途として

- * 家具用
- * 建築用造作・内装材・天井板
- * 建築用構造・外装材

小径木で使いにくかったカラマツも大径化が進んで品質が向上していること、乾燥技術の進歩などにより使用後のくずれが少なくなったこと、また材質が硬い（強い）ので使いにくいというカラマツの利点（欠点？）も、機械による部材加工・プレカット化で材扱いが楽になっているなど、使用する場所を選ぶことで、建築用材として十分使用できると考えます。要はカラマツ企業が工務店やエンドユーザーに対して、カラマツの良さを使

用を積極的に働きかけることではないでしょうか。最後になりましたが、アンケート調査に協力いただいた各企業、および各支庁の林産担当の皆さんに感謝します。

参考資料

- 1) 北海道カラマツ対策協議会：季報No.56（1989）
（林産試験場 経営科）